

第 7 0 号

平成25年3月1日

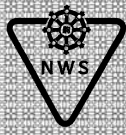
発行所

駒沢看護保育福祉専門学校

岩見沢市9条西3丁目 〒068-0029

TEL (0126) 25-0300番

印刷所 KK 組合印刷



NWS通信

Nurse (看護)・Wellbing (福祉)・Special (専門)

吾が名「光風」(こうふう)



学校法人駒沢岩見沢学園
理事長 山本 光風

青森県西津軽郡鮎ヶ沢町は私の両親の出身地である。津軽平野の西寄りの日本海に面した港町である。江戸時代までは北前船の寄港地であり、この地域の中心として

繁栄した港町だった。しかし今はその面影はどこにもない。弘前城址から見た岩木山の裏側の遠くの山間を中村川が流れている。この川は鮎ヶ沢港に注いでいる。川に添って三キロ程上流に行く

と集落がある。ここが父の育った村である。山本総本家はこの地の一部を所領としていたらしい。この娘に婿をとり、分家させた家の次男が父だったから、分家の分家ということになる。太平洋戦争後、農地解放があり田畑は減少したが、山林は対象外だったので、山地主としての比重が大きかったようである。

次男の父は弘前市で会社務めをしていたが、早く身を固めさせた方がよいという周囲の話で、生家の隣村から嫁を迎えた。この人が私の母である。当時は文学青年だった父は、光風雅号の俳人の句

が好きで自分の長男にはこの名をつけることに決めていたそうである。ところがこの事を総本家の当主に報告したところ、大反対であった。俳人や坊主は音読みでもよいが、日本国は訓読みが伝統であり、山本家にはふさわしくない、どうしてもこの漢字にこだわるのなら

光風(みつかぜ)とせよとの命令であったから当主の言には逆らえなかったのである。教師になってから初めて聞く名の由来である。どちらでもよいとそのままに放って置いたのだが、私も一家の主となってみるとそういうわけにもいかず、父に再確認した上で以後は手続きをして正しく光風(こうふう)と名乗ることになったわけである。「光風霽月」「風光明媚」等の言葉に名前負けしていても思うが、他人には変わった名だとよく聞かれる。しかしまぎれもなく「吾が名、光風」なのである。

今年父の二十七回忌に当る。母はまだ健在である。

卒業を祝して



駒沢看護保育福祉専門学校
学校長 木原 キヨ子

本校から社会に巣立って行く、保育科、看護第1科、第2科の卒業生の皆さんに「卒業おめでとうございます」と心からお祝い申し上げます。

皆さんは、保育士、幼稚園教諭、看護師の資格を得て社会に貢献するという志を持って、学んできました。専門性の高い学科目を習得し、保育科は保育園や幼稚園に於いて、実践的な学習がありました。看護科は老年施設や医療施設で看護実践を学び、専門士としての基礎をしっかりと修められたのです。ここで二年間、又は三年間学んだ本校の教育理念と方針について振り返ってみます。

曹洞宗の教義に則り、禅の精神を基調とした、円満な人間形成にあります。「行学一如」、「心身学道」(即ち、行いと学んだことを一致させること)であり、体と心をもつて人間の道を学ぶことでもあります。具体的な内容を言葉にしますと、一つは深く自らをかえりみることの出来る人間であること、二つは、規律を守ることから始め、社会の秩序を守り、正しい規範を

身に付けることであり、三つには、社会に役立つ人間になろうと努力することであり、四つには、親兄弟、社会に対する恩恵に感謝し、自らも人類や社会の福祉に貢献する人間になるよう努めなければなりません。この標語として信誠敬愛の実践を学んでまいりました。皆さんは、社会人になりました。この言葉、精神を貫き通す事を期待します。

ここでの学びを基にすえ、いかなるときも真剣になって努力し、責任感と指導力にあふれる専門士として、社会の期待に応えられる為の研鑽を積み、人間・職業人としての力量を存分に発揮してくださいと確信いたしております。学生の皆さんには、学校行事の「三仏忌」の時、山本理事長先生、加勢先生の講和から学ぶことです。「仏陀」の教えを解りやすくそして、生活に取り入れられるように教えています。在校生の皆さんが祈る姿は尊く、生涯に残るものであります。学生の皆さんが心身ともに健康で活躍されますことを念じております。

保 育 科

保育専修科進学にあたって

34期生 二年生 江藤 真希

保育士になりたいという目標を持ち、入学してから2年が経ちました。私にとって、この2年間はとても短いものでしたが、様々な経験をすることで保育者の仕事の重要性、やりがい等を感じました。実習を通して多くの人と関わり、一人ひとりを見つめること、子どもの気持ちに寄り添うことの大切



さを学びました。学校生活では学習が進むにつれて、勉強の内容も深まり難しくなってきましたが、日々の積み重ねが大切なので疎かにせず、勉強にも励みたいと思います。

3月で保育科を卒業し、4月からは専修科に進学することになりますが、専修科ではこれまでの経験や学習を生かして、さらに頑張っていきたいと思います。クラスの仲間と支え合い共に成長し、色々なことに挑戦して自分自身を高められるよう、日々精進していきたいと思います。

実習を終えて

34期生 二年生 野口 遥香

私は二年間で、保育園実習と施設実習を終えてきましたが、その中で様々な事を学び実感しました。まず、どうしたら子ども達や施設にいる利用者さん達は楽しいと感じてくれるのか、と相手の立場に立って物事を考える大切さを改めて感じました。そして、相手に嬉しい・楽しいと感じてもらうためには、今自分が出来る事を



精一杯頑張る事が大切だと、今までの実習を通して強く実感しました。相手の気持ちを考え行動するという事は、難しい事だと思えます。そして自分が忙しい時や、気持ち沈んでいる時程、そうだと感じます。しかし、どんな時も、それを常に意識し相手の為に精一杯頑張る事が、福祉の仕事を目指す私達にとっても大切な事だと思えます。

時間と気持ちに余裕を持ち、いつでも子どもや保護者の事を考え行動し、信頼される保育者を目指し、日々頑張っていきたいと思えます。

保育専修科修了にあたって

33期生 保育専修科 源内 弘美
入学してからあつという間に3



年が経ち、卒業を迎えようとしています。

入学当初は、「3年間やっていけるのか」という不安もありましたが、半年が経過した頃から学校生活にも慣れ充実した日々を送ることが出来、自然と不安だった気持ちもなくなりました。

学年が上がり授業は、より専門的なものとなり難しさを感じると共に保育者になりたいという気持ちが強くなりました。

また、実習では実際に子ども達と関わり、楽しさを覚えると同時に保育士の仕事の大変さを実感することが出来ました。

3年間で沢山の経験をし、時には、思い

通りに行かず悩むことやくじけてしまうこともありましたが、先生やクラスメイト、そして家族の力を借り頑張ることが出来ました。沢山の方々を支えられながら保育者という夢に向かい続けられたことに感謝します。

卒業後は、それぞれの道に進みますが、3年間学んだことを忘れず、子どもの気持ちに寄り添うことの出来る保育者を目指して行きたいです。



看護第二科

二年間の学校生活を

振り返って

16期生 佐藤 妙子

看護師を目指し進学をしてから早くも二年が経ち卒業の時を迎えました。

学校生活を振り返ると、次々と行われるテストや技術演習、実習に追われ、時には自信を無くし投げ出したくなる様な時もありました。しかし、最後まで乗り切った時の達成感や總持寺での研修など、今までに無い貴重な思い出や経験をさせて頂く事が出来ました。



その中で自分を見つめ直し、何に対しても「感謝」するということ事を学ばせて頂いたと思います。この二年間を乗り越え、看護師になる夢を叶える事が出来たのは実習の中で受け持たせて頂いた患者さん、指導者の皆様、辛い時に助け合い励まし合った友人たち、そしていつも暖かく見守り指導、助言して下さいました先生方のお陰であると感じています。卒業後もこの「感謝」の気持ちを忘れず、一層向上心を持って頑張っていきたいと思えます。

卒業にあたって

16期生 藤原 敬子

看護師になるという目標を持ち入学した当初は、慣れない土地での生活、勉強、年齢の離れた級友達の中でやっていけるか不安でした。

専門的な授業には戸惑い、次々にやってくるテストでは無我夢中でしたが、学習を重ねるうちに看護の奥深さや学ぶことの楽しさを知りました。

実習では記録が朝までかかったり、コミュニケーションや何を援



助したらよいか悩んだりと苦しい日々が続くこともありましたが、先生方の熱心な指導や学生に対し「ありがとう」と声をかけてくれた患者さんのおかげで乗り越えることができたと思います。

そして、ここまで成長できたのは、助け合い同じ目標に向かう仲間、いつも励ましてくれた家族や支えてくださった方々のお陰であると実感し感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後も胸沢での学びを基にたくさんの人々と出会い、体験を活かし、患者さんの気持ちに寄り添う看護ができるよう努力していきます。

1年を振り返って

17期生 漆館 恵美

看護師としての学びを深める覚悟と不安、新しい生活への期待を抱いて入学してからまもなく1年が経とうとしています。

この1年間で、特に難しいと感じた学習の中に看護過程がありまます。グループワークで取り組み、自分では気付くことができなかったことをクラスメイトから学び、

看護過程発表会



お互いに刺激し合って成長してきました。行き詰まってしまった時には、先生からのアドバイスを得て更に学びを深めることができました。仲間がいること、的確な指導を下さる先生達が側にいてくれることが心強く、自分一人ではできないのではないかと思うこともありましたが、周囲に支えられて乗り越えることができ、とても感謝しています。

実習に向けて、これまで以上の学習が必要になります。机上での学習と異なり、患者さんを目の前にして、適切な援助ができ、自分が目指す看護師になれるよう、残りの学校生活を、悔いなく一杯勉強して資格取得に邁進したいと思います。

看護第一科

看護師に向けての第一歩

4期生一学年 金沢 実夢

夏休みが明け、テストの日々に追われながらも一つ一つクリアし、無事に載帽式を迎えることができた。初め新しい実習着を身にまとい、看護師に一步近づけたような気持ちがあった。

約二ヶ月後、基礎実習Ⅰaがスタートした。学内実習で看護師役と患者役を何度も経験していたが、実際に患者さんを目の前にすると、何をしていたかわからず、足がす



くみ戸感ってしまつた。あとになつて気付いたことが、患者さんとのコミュニケーションについて

である。患者さんとコミュニケーションをとる時は、患者さんに近づいて同じ目線で話し、タッチングをするなど、私達から相手に対し積極的に心を開いて頂けるように働きかけることが大切だと気付いた。

授業では当たり前だと思つていたことでも実際だとなかなか行動に移すことが難しく、自分の勉強量はまだまだ不足している。基礎実習Ⅰbでは、少し日常生活援助を経験したが、二月から始まる基礎実習Ⅱでは、看護過程を展開しながら、多くの援助を実施するので、それに向けて、精一杯学習を深め、自分にとって意味のある実習にしていきたい。

実習を終えて

3期生二学年 岩崎 里紗

2学年となり、3クルールの実習を通して私達は多くのことを学びました。1学年の実習と比べ成人実習では、疾患が複雑であつ

たり自立度が低い患者さんを受け持ち、その人の個性に合った援助や自立度を向上させるための援助の大切さについて学びました。

また終末期にある患者さんと関わつた学生が多く、患者さんにとってQOLとはどういうことであるのか、学生である自分には何ができるのか、悩みながらも指導者さん、担当教員、仲間を支えられながら答えを出し関わることができました。病気は患者さんだけ



でなく家族にも大きな影響を与え、家族の想いに寄り添つた看護介入の大切さを実感しました。

看護師として誠実な態度、姿勢を忘れずに今後も実習に臨んでいきたいと思ひます。



3年間の学び

2期生三学年 中田恵美子

3年間看護について多くのことを学ぶことができた。

臨地実習では、高齢社会であることから老年期の患者を受け持たせていただくことが多く、既往歴が多く性格の気難しい患者もいた。病態をアセスメントしながら患者と関わっていく中で、気難しい性格は多数の疾患を持つことからのストレス・身体的苦痛や、長い人



生の中で培われた価値観であることが理解できた。ある受け持たせていただいた患者は、呼吸器疾患により呼吸苦が強かった。その患者に合わせてパンフレットを作成し、安楽な呼吸法を指導したところ、呼吸苦が徐々に改善することができた。その患者に必要な看護を考えていくことは難しかったが、「楽になったよ。」と患者の笑顔が見られたときには、看護のやりがいを感じる事ができた。悩んだ分喜びも大きく、沢山の学びがあった。

現在、3年生は、直前に迫つた国家試験に向けて励んでいるが、

実習で受け持ったことのある疾患はイメージしやすく、正しい理解につながった。3年間の講義や実習で学んだこと一つ一つが国家試験合格への道につながっていることを身をもって知ることができた。後輩の皆さんもこのことを忘れず、一つ一つの学びを大切にしてい

試験や実習など辛い3年間であったが、国家試験に合格し3年間の学びを生かして、4月から看護師として一生懸命頑張りたい。

看護師への夢を追いかけて

2期生三年生 大越すみれ
看護師を目指し本校に入学して



から、早くも残すは国家試験のみとなりました。国家試験全員合格に向けて日々勉強に精進する毎日です。

看護学生として過ごした3年間は非常に内容の濃いもので、特に臨地実習での経験が私達を大きく成長させました。

1年生の頃は個別性のある看護が一体どのような看護であるのか模索し、目の前の事をこなしていくだけで手一杯でしたが、3年生になると患者さんが求めている事を読み取る力や患者さんの目指す今後の姿を想定しながら看護を実践し、回復や療養生活をよりよいものにしていくための関わ

りが出来るようになってきました。時に辛く苦しい場面があっても患者さんの笑顔や「ありがとう」という一言に励まされ、何より一緒に実習しているクラスの仲間と苦しみを分かち合い励まし合いながら一つ一つ壁を乗り越えてきました。

そして先生や実習先の指導者、スタッフからその都度的確な指導や助言を受け、成長させて頂いたおかげでここまで来る事が出来ました。

今まで関わった全ての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れずに、またこれから関わる方々に感謝の気持ちと誠意を持って看護の道を歩んでいきたいと思えます。



「学友会活動について」

保育科34期生二年生 横山みづき
学友会では保育園や幼稚園などの現場で行われる行事を企画運営しています。

9月に企画した遠足では多くの反省点が出ました。事前準備不足のため、動物園に到着してから、集場所の指示誘導に時間がかかってしまったり、学友会の中で役割分担が出来ていなかったため、それぞれが主体となつて動こうとしない等がありました。

それらの反省点を生かしながら、学友会のみならず協力して、今後の行事の企画運営をしていきたいです。

企画、運営の回数を重ねていく中で失敗した事や、改善すべき点は見直しをしていき、保育科の全員が様々な行事を楽しみながら参加出来るよう、役員全員で力を合わせていこうと思っています。そして、さらに良い行事が行えるようこれからも一生懸命頑張っていきたいです。

学友会活動紹介

学友会を通して

看護第一科17期生二年生 山川 将志

入学後は、二年生は実習、一年生はテストや演習、グループワークにより忙しい日々が続く、交流はほとんどありませんでしたが、スポーツ交流会を学友会で運営・企画することになり、二年生と徐々に話す機会が増えていきました。準備にあたり、苦労や大変なこともありましたが、スポーツ交流会を成功させるために皆で作業し、とても充実した

日々を送ることができました。また、スポーツ交流会は、学友会、担当の先生、皆の協力により楽しい時間になることができたと思います。学友会を通して自分は二年生との交流を深めることができ、大切なことをたくさん学ぶことができました。普段の学校生活では時間に追われ、どうしても余裕がなくなっています。その中で、学友会の行事で皆さんがすこしでも楽しんで、リフレッシュできるような企画していきたいと思っています。

学友会活動をふり返って

看護第一科3期生二年生 田村 優泉

今回一年次に引き続き、二度目の学友会として前回の経験を生かしながら、「交流」を目標にして考え、学友会活動を行ってきた。新入生歓迎会、スポーツ交流会、実習激励会と行事を重ねる度に学友会役員で反省をし、改善点を導き出しながら、楽しめるだけでなく、他学年との交流のきっかけとなる行事を作りあげることができた。

行事の中でも特に思い出深いのはスポーツ交流会である。昨年末での種目から大きく変更し、学年対抗リレーなどを取り入れ、初めて行うことが多かった中、学友会役員全員で協力・団結し、盛大に行えたことは最高の思い出となった。

今年度最後の学友会行事である、二期生を送る予餞会は、三年生と最後の交流できる場であるため、楽しく卒業後の糧となるような行事にするため精一杯取り組んでいきたい。

先 生 一 言

「教員2年目を
ふり返って」

看護第二科 半田紀代子



看護師として病院で勤務した後、教育の現場に入りました。看護とは、病気や障がいをもっている人たちに対し、その価値観や信条、生活背景などを理解し、その人らしい生活がおくれるように援助することです。

国家試験に合格すると、新人とはいえひとりの看護師です。臨床では、看護師としての知識と技術はもちろんのこと、患者さんの立場に立って、何が大事なのかを考え判断し、行動することが求められます。医療の現場では、「いのち」に向き合いながら「何が正しいのか」と迷い、悩むことが多々あるかと思いますが。臨地実習において、学生が患者さんや

ご家族の喜びや悲しみ、苦しみに対して、優しく寄り添いながら療養生活を援助することができるよう、患者さんにとって「何が大事なのか・どうすることが良いことなのか」を一緒に考える教員になりたいと思います。

「常に誠実であれ」

看護第一科 佐藤 悦子



この春、2期生39名が卒業する。4月には、就職・進学とそれぞれの目標に向かって羽ばたく。昨年卒業の時の思い、胸を熱くする涙もろい担任に、学生達は、当日はうんと泣かすと面白がっている。学生といると癒される。多いに心配もさせられるが、正直な所、学生に支えられて今日があるような気がする。

我校は、人間教育を基盤として
いる。教員は学生の心を大切に
指導にあたっていると自負して
いる。2期生もそれに応え、成長
してきた。4月からも看護師と
して、人として、誠実であるよう
努めて欲しい。誠実さとは、「言
を成し、それを実にすること」で
ある。つまり、心と身体の姿勢が
正しく素直で、真実を貫くこと
である。例えば、小さなことも一生
懸命行い、感謝の心を言葉や態度
で伝えられ、言行一致し、感情の
コントロールが出来て相手に常
に不変な精神状態を保つ事であ
る。

誠実であることを日々当たり
前の事として実践すれば、必ず身
に付く。その人間性は、一生の宝
となり、貴方の魅力になる。どう
ぞ39個の原石を磨き、39色の輝き
を放ってください。



平成26年度 **学 生 募 集 要 項** 看護第一科(昼間3年課程)

出願形態	試験日	出願期間	選考方法	合格発表
指定校推薦入試	平成25年12月7日(土)	平成25年 11月18日(月)	(1)面接 (2)小論文	平成25年 12月11日(水) (合格者のみ)
一般推薦入試		平成25年 11月29日(金) (当日消印有効)	(1)面接 (2)国語総合(古文・漢文除く)	
一般Ⅰ期入試	平成26年2月8日(土)	平成26年 1月14日(火)	(1)国語総合(古文・漢文除く) (2)英語Ⅰ・Ⅱ (3)数学Ⅰ・A ※社会人は(1)のみ。(2)(3)は免除	平成26年 2月10日(月) (一次合格者のみ)
社会Ⅰ期入試		平成26年 1月31日(金) (当日消印有効)		
	平成26年2月17日(月)	面接(一次合格者のみ)		平成26年 2月18日(火) (合格者のみ)
一般Ⅱ期入試※	平成26年3月9日(日)	平成26年 2月28日(金)	(1)国語総合(古文・漢文除く) (2)英語Ⅰ・Ⅱ (3)数学Ⅰ・A ※社会人は(1)のみ。(2)(3)は免除 (4)面接	平成26年 3月10日(月) (合格者のみ)
社会Ⅱ期入試※		平成26年 3月3日(月) (当日消印有効)		

試験会場 **駒沢看護保育福祉専門学校 看護科校舎** 〒068-0029 岩見沢市9条西3丁目1-15

※定員に達した場合、実施しないことがあります。詳細については入試係までお問い合わせ下さい。